

【建設コンサルタンツ協会 業界展望を考える若手技術者の会 代表  
オリエンタルコンサルタンツ統括本部人事企画室副室長 伊藤昌明氏  
若手世代が明るい未来描く】

# 若手世代が明るい未来描く

建設コンサルタンツ協会（長川伸一会長）が昨年4月に設置した「業界展望を考える若手技術者の会」。同会の発起人であり、代表を務める伊藤昌明氏（オリエンタルコンサルタンツ統括本部人事企画室副室長）は、「今年度中に将来ビジョン案の策定を目指す。つくるだけではない。若手世代で共有をしたい。全国の若手技術者を集めた討論会を行い」と意気込み、伊藤代表にこれまでの活動や今後の取り組みなどを聞いた。

若手技術者の会の発足の経緯を

「建コン協として、魅力ある業界にしていくためにはどうすればよいか議論をしているのが、経営者や会社幹部など上層部の方々ばかりだった。将来的に魅力ある業界になっていくことを考える段階で、本来であれば主役はわれわれ若手技術者だが、そこに加わっていないことが疑問だった。われわれの世代が明るい未来を描いて活動していくことが果たすべき役割ではないかという点で、総務委員会に提言し、準備に1年をかけて設置した」

これまでの活動状況を

「大き〜3つの活動をしている。1つ目は毎月1回程度開いている定例会。2つ目は、その中でわれわれ自身が描く将来ビジョンをつくること。3つ目は広報活動。委員の中には、ほかの人がどのくらいの職場で働いているか知りた〜という意見も多いので、社歴を転移したパシフィックコンサルタンツと二代エンジニアリングでオフォーエクスも行った。協会を支部と交流は北陸、関東、九州でも実施している」

支部をめぐると、抱えている課題は同じだと感じる。苦しい就業環境の中で仕事をしついで、いまの仕事にモチベーションが持てないといった話が出てくるが、現状を変えたい



伊藤 昌明氏  
オリエンタルコンサルタンツ  
統括本部人事企画室副室長

建設コンサルタンツ協会  
業界展望を考える若手技術者の会 代表

「1つは仕事に対するモチベーションの低下。過度な残業で自由な時間が持てないこと。苦勞に見合った収入が得られていない。全産業的に比較すると、収入はそれほど低くはないが、感覚的にそう感じている。上司から細かい作業を割り振られるため、本来の仕事の醍醐味、面白みを実感できていない。われわれの仕事の意義を日常的に感じにくく

若手技術者を取り巻く課題は

「1つは仕事に対するモチベーションの低下。過度な残業で自由な時間が持てないこと。苦勞に見合った収入が得られていない。全産業的に比較すると、収入はそれほど低くはないが、感覚的にそう感じている。上司から細かい作業を割り振られるため、本来の仕事の醍醐味、面白みを実感できていない。われわれの仕事の意義を日常的に感じにくく

## 知識を行動に移さなければ

「若手同士の交流の機会も限定的だ。各支部に若手の組織があり、大先輩を訪問したり、高校生を対象にした広報活動を行っているが、支部の中でクロスしており、建コン協として普及活動の効果も限られている。また、同業他社の若手のやりがい、苦勞、働き方を知らない、自分の会社の中で活動が閉じているので、何が良くて何がダメなのか、何がつらいのか分かっていないため『自分だけがつらい』という感覚に陥ってしまっ。だからこそ同業他社の情報提供も行っていく必要がある」

将来ビジョンの策定状況を

「自分たちが定年を迎える30年後のイメージを想定して描くこととした。市場、働き方、イメージの3つのワークショップ（WG）に分けて議論を展開している。市場WGは、いまの市場では底をついているところもあるの、新しい領域を目指す

同世代の若手技術者に訴えたいことは

「嘆いているだけでは何も変わらない。普段思っていることや自分がやってみないことは、行動に移さないと限り変わらない。』アクションなし」と強く思っている。建設コンサルには頭が良く知識を持っている人が多くがその知識を行動に移せるかどうか、社会にとって非常に重要な仕事をしている中で、『やりがいがない』と思っているのであれば、立ち上がり自分たちが変えていくという気概を持たなければ、業界として変わっていくかない」



5月に、九州支部で行われたワークショップ。意見を交換する中で互いにエネルギーを感じ合う有意義なものとなった

やりがい求め自分たちで変えていく

「明るい口調で語り、常に笑いを絶やさない輪が人を引きつける。まず行動を心がけ、大きなムーブメントになるまで信じていると強調する。『大ムーブメント』という言葉を掲げているが、『意図して活動しなければならぬ』と、全国の若手技術者をけん引する強いリーダーシップに期待がかかる。広島市出身、40歳。